

（育苗から定植後（～10月）までの県下統一の取り組み）

トマト黄化葉巻病根絶のため、施設すべて、地域ぐるみで取り組もう  
**「入れるな！増やすな！」**

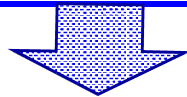
トマト黄化葉巻病の被害が再び増加しました。

このため、多くの地域ではシルバーリーフコナジラミ（以下、コナジラミと略します）の徹底防除や施設からの飛散防止対策、発病株の抜き取りに取り組まれました。

しかし本年7月の農業総合試験場の調査では、トマト栽培施設周辺で黄化葉巻病ウイルス（以下、TYLCVと略します）を保毒したコナジラミを高い割合で確認しています。

今年も多発する可能性があります。

夏は保毒コナジラミが野外に飛散し、露地トマトや野良生えトマトにTYLCVを感染させています。苗にも飛来し、感染させる危険性が高くなっています。これら感染トマト上でTYLCVを保毒したコナジラミが、施設トマトの定植及び外気温の低下とともに、再び施設内に戻ろうとしています。



TYLCVの本ほ施設への侵入は、感染苗か、保毒コナジラミによります。

**今**、これらを施設内に入れないことが根絶の第一歩です。  
もし侵入したら、早めに防除することが重要です。

防除のポイントは

施設内にTYLCVを**「入れるな、増やすな」**



**施設内にTYLCVを入れない【入れるな！】**

- ・感染苗の持ち込みを防ぐ。
- ・野外からの保毒コナジラミの侵入を防ぐ。

**施設内でTYLCVを根付かせない【増やすな！】**

- ・感染株を早期に抜き取る。
- ・コナジラミ防除を徹底する。

## 【入れない、増やさない対策】

### 1 感染苗の持ち込み防止

【入れるな！】

#### 苗への感染防止

苗づくりの時期は、コナジラミの活動が盛んで感染の危険性も高い時期です。防虫ネットを設置するなど**侵入防止**に努めましょう。また、**薬剤防除**を徹底しましょう。

#### 感染苗除去

発病苗や感染の疑いのある苗があれば除去し、**健全な苗だけ**を使用しましょう。

### 2 保毒コナジラミの侵入防止

【入れるな！】

#### 防虫ネット

露地トマトがある**10月頃までは野外に保毒コナジラミが多く**、侵入防止策は特に重要です。

**防虫ネット(網目0.4mmを推奨)**を天窓まですべて張りましょう。

出入口は二重に被覆しましょう。すき間や破れ目はありませんか。

**マルハナバチの野外への逃亡防止からも、天窓へのネット設置は必須です。**

#### 伝染源除去

施設周囲に発病トマトや野良生えトマトがあれば、除去しましょう。

### 3 感染株の除去

【増やすな！】

#### 感染株抜き取り

施設内に感染株があつては、コナジラミがごく少発生でも施設全体にTYLCVが広がってしまいます。

発病株や疑わしい株は、コナジラミの保毒率を高めないように、**速やかに抜き取り**ます。

ミニトマトでは症状が見分けにくい場合もありますが、疑わしい株も除去します。

#### 適正処分

抜き取った発病株は、**放置すると感染源**になります。

ビニル袋等で密封し**枯死させてから処分**します。

### 4 コナジラミの徹底防除

【増やすな！】

#### 定植期の粒剤施用

定植時期はコナジラミが多発しやすく、TYLCVが感染しやすい時期です。

**粒剤は長期的にコナジラミを防除**し感染を予防します。

#### コナジラミの適期薬剤防除

10月頃までは保毒コナジラミが侵入しやすく、施設内でも増殖しやすい時期です。

**防除を徹底**し、葉裏までていねいに散布します。

非散布型農薬(ラノーテープ)を設置する場合は、使用期間を必ず守ってください。

発生予察(黄色粘着板利用など)を行うと、わずかな発生も確認できます。

#### 施設内の除草

**施設内の除草**に努め、コナジラミが雑草に残らないようにします。

これらの対策は他の害虫防除にも通じる総合的な防除対策です。

平成17年8月作成